

中村かずひこ通信



【発行元】中村かずひこと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp

vol.58

9月定例議会報告 9/4 ▶ 9/26

9月定例議会が、4日(月)から26日(火)の23日間にわたって行われました。
今回、執行部から提出された議案は、平成28年度の一般会計・特別会計・水道事業会計決算のほか、指定管理者の指定(まちのお休み処)、工事請負契約(リサイクルセンターの設計・建設工事)など計13議案で、いずれも原案通り可決されました。

質疑・一般質問



議員による質疑・一般質問は、11日(月)と12日(火)の2日間行われ、中村は11日の3人目に登壇。4件の課題について一般質問を行い、執行部との論戦を展開しました。

執行部は答弁の中で『弾道ミサイルの飛来を想定した避難訓練』を計画していることや、『市立保育所における保育士確保のための取り組み』について調査・検討を開始したことなどを明らかにしました。

(中面に関連記事)

平成28年度 決算審査特別委員会

また、22日(金)に行われた『平成28年度決算審査特別委員会』において、中村は以下の11項目について質疑を行い、予算の執行状況や事業効果などをたどしました。

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1. 地域情報通信基盤設備費(CATV関係)について | 7. 母子福祉費について |
| 2. 人材育成費(市職員の研修関係)について | 8. 保育所費について |
| 3. ふるさと寄附推進事業費について | 9. 不登校対策費について |
| 4. 障がい者自立支援給付事業について | 10. 特別支援教育支援事業費について |
| 5. 老人福祉費について | 11. 指導体制充実費(学校図書館の専任司書配置)について |
| 6. 緊急通報システム整備費について | |

中村が行った一般質問の内容

- 1.弾道ミサイルに関する危機管理対策について**
(1)Jアラート発動時における対応について
(2)市民への啓発について
(3)各種計画に与える影響について
- 2.子育て環境の整備について**
(1)待機児童問題の解消について
- 3.地域の特色を活かした活性化策について**
(1)国際交流事業について
(2)大学生等の合宿誘致について
(3)NHK大河ドラマの誘致について
(4)クラウドソーシングの普及・促進について
- 4.教育関係の諸課題について**
(1)平和教育の推進について
(2)校務支援システムの導入について
(3)各種スポーツチームとの連携について

市民と市政のかけ橋になりたい！

☆お気軽にお声をかけて下さい。
お友達との井戸端会議、勉強会等。2〜3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。
☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！
お気づきの点がございましたら、どんな小さなことでも結構です。ぜひご意見を！

「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで「未来をつくる会」では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜57号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。
こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日

平成30年 2月4日(日)
発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。

皆様のご意見をお聞かせください！

議会基本条例(素案)パブリックコメントを実施中

真岡市議会では、市民に開かれ、より活性化した議会を目指して、これまで『議会基本条例』の制定に取り組んできました。この度、条例の素案がまとまり、その内容について広く市民の皆様のご意見をお聞きするため、パブリックコメントを現在実施中です。

意見募集

《 期 間 》 10月23日(月)～11月20日(月)

《 提出先 》 議会事務局(市役所本庁舎2階)

直接・郵送 〒321-4305 真岡市荒町5191

ファックス 0285-83-8714

メー ル gikai@city.moka.lg.jp

条例案の
閲覧方法

市のホームページもしくは、
議会事務局、市民館、真岡西分館、
山前分館、大内分館、中村分館、
二宮コミュニティセンターで
閲覧できます。

※いずれかの方法でご提出ください。電話での受付はいたしておりません。



中村かずひと議会レポート

9月定例議会 一般質問

【答弁者】

石坂 真一 市長
 田上 富男 教育長
 野澤 雅孝 市民生活部長
 佐藤 厚 健康福祉部長
 成毛 純一 産業環境部長

質問:中村かずひこ

1.弾道ミサイルに関する危機管理対策 について



質問 8月29日の朝、北朝鮮から弾道ミサイルが発射された。このミサイルは、北海道襟裳岬上空を通過し、約2,700km飛行後、太平洋上に落下した。栃木県を含む12道県では『Jアラート』(全国瞬時警報システム)が発動され、市民は耳慣れない警報音とともに緊迫した時間を過ごした。その際、真岡市ではどのような対応がとられたのか。

答弁 『Jアラート』発動から8分後の6時10分に安全安心課の職員2名、同11分には総務課職員1名が登庁し、状況把握と市民からの問い合わせに備えた。また、市長と副市長に、市民生活部長から連絡があり、情報収集に努めることを指示した。さらに、ミサイル通過後の6時30分に『Jアラート』による情報が防災無線などで伝達されたかなどについて、栃木県からの調査があり回答した。市民からの問い合わせは、真岡警察署に3件あったが、市役所にはなく大きな混乱は見られなかった。

質問 『Jアラート』が発動された際、何をしていたのか分からなかった市民も少なくなかった。市の広報紙やホームページ、さらには出前講座などを活用し、市民に再確認を促すべきではないか。また、宇都宮市のように弾道ミサイルの飛来を想定した避難訓練を実施する自治体も増えているが、真岡市の考え方は。さらに、教育現場での啓発も欠かせないと思うが。

答弁 今後、出前講座や地域づくり事業の防災座談会で説明するほか、広報紙などに掲載して市民への啓発を図っていきたい。また、ホームページには『Jアラート』の関連情報は掲載しているが、トップページにないので修正を速やかに行っていく。さらに、10月21日に真岡西小学校で行われる防災避難訓練の中で、ミサイル発射時の避難行動を啓発する。教育現場については、これまで実施してきた電巻を想定した避難訓練が、ミサイル発射時を想定しても実効的な啓発につながる。今後は、各校の実情に応じた対策がなされるよう、指導・助言をしていく。

質問 この度のミサイル発射を踏まえ、真岡市の『国民保護計画』や『新庁舎建設計画』などの各種計画に与える影響は。また、この度策定された『事業継続計画』の内容や『BCP策定推進都市宣言』に関連した事業などについて、修正・追加の手続きは必要ないものか。

答弁 『国民保護計画』は、国民保護法に基づき作成されたものなので、法律改正の場合は見直しを実施する。また、同計画については新たに市のホームページにも掲載し、周知を図っていく。『新庁舎建設計画』については、弾道ミサイルを想定しての見直しは考えていない。また『業務継続計画』、『防災計画』、『職員初動マニュアル』などは、大規模災害を想定したものだが、ミサイル攻撃が新たな脅威となることから、今後の動向を踏まえ対応していく。

2.子育て環境の整備について



質問 6月29日付けの下野新聞に、栃木県内における保育所の待機児童に関する記事が掲載された。それによると、最も待機児童が多いのが那須塩原市の37名。2番目に多いのが真岡市で22名となっている。近年、真岡市では認定こども園の整備を進めてきたが、待機児童問題の解消に至っていない現状をどのように分析しているのか。また、小山市では『潜在保育士』を対象とした就職準備金の制度をスタートさせるなど、保育士の確保に力を入れているが、同様の取り組みが真岡市でも必要ではないか。

答弁 今年4月1日時点での真岡市の待機児童は22名で、前年度より13名増加している。昨年度、認定こども園の増築により定員が29名増えたが、保育を必要とする児童も113名増えている状況である。今後、認定こども園の新たな整備を進めるとともに、保育士の確保にも努めていきたい。なお、保育士の確保については、来年度から実施できるよう具体的な施策の検討に入っている。

3.地域の特色を活かした活性化策 について



質問 来年は、真岡市が行っている国際交流事業が、様々な面で節目の年にあたる。

| | | | |
|-------|----------------|------------------------|----------|
| 昭和58年 | 真岡RC(ロータリークラブ) | 台湾・斗六RCと姉妹クラブ | ▶▶▶ 35周年 |
| 昭和63年 | 真岡市 | アメリカ・グレンドーラ市と姉妹都市 | ▶▶▶ 30周年 |
| 平成5年 | 真岡西中学校 | 斗六市の正心高級中学と姉妹校 | ▶▶▶ 25周年 |
| 平成15年 | 真岡中学校 | オーストラリンド校(オーストラリア)と姉妹校 | ▶▶▶ 15周年 |

これらの記念事業について、どのようなものを考えているのか。また、姉妹都市などの文化は、もっと真岡市の活性化策に活かしてはどうかとも考える。その1つが『ご当地グルメ』の開発である。国際交流事業で訪問をする際に、市内の飲食店関係者などに同行していただき、食文化を調査してもらうことはできないものか。

答弁 来年、真岡市のグレンドーラ市が姉妹都市を締結して30周年を迎える。10周年と20周年の時には、両市の関係者が相互に行き来して記念式典が開催された。今回も、これまでの記念事業を参考に検討していきたい。なお、真岡西中学校と正心高級中学との姉妹校締結25周年を迎えるが、市としての記念事業は考えていない。『ご当地グルメ』の開発は、行政や食に携わる者だけが行うのではなく、地域住民との連携が必要である。姉妹都市などの食文化を活用した『ご当地グルメ』の開発については、住民の間から要望があれば、市としても支援をしていきたい。国際交流の際、飲食店関係者に同行していただくことは、渡航日程などを考えると困難であるため考えていない。

質問 市内の宿泊施設の稼働率が最も低い2~3月と9月は、私立大学が休業中にあり、ゼミやサークルの合宿が多く実施される。大学生などの合宿を真岡市に誘致する取り組みはできないものか。前回質問をした際には、運動施設の予約確保や観光事業者との連携など多くの課題があるので考えていないとの答弁だった。しかし、そうした作業が手間というのなら、真岡市は観光振興に一体どこまでやる気があるのかさえ疑問に感じるが。

答弁 大学生などが真岡市内で合宿を行った実績は、平成27年が11件で335名、28年が16件で579名だった。これらの受け入れについては、一部の宿泊業者が自らの営業活動で宿泊者を確保していると聞いている。合宿目的による交流人口が増加することは、真岡市のイメージアップにもつながると考えるが、宿泊施設や観光事業者との連携など多くの課題があるので、誘致活動については現時点では考えていない。

質問 昨年の9月定例議会で、千葉県香取市の取り組みを紹介した。同市では、郷土の偉人である伊能忠敬をNHK大河ドラマの題材にするため、市民全体で誘致活動を盛り上げている。そうした姿勢は、私達も見習うべきである。まずは真岡市が市民全体で誘致活動を盛り上げ、理想を言えば『全国報徳研修市町村協議会』の加盟自治体で、より積極的に活動を展開してはどうか。

答弁 真岡市は、尊徳翁ゆかりの17市町村で組織する『全国報徳研修市町村協議会』に加盟し、そのうち5市(掛川市、小田原市、日光市、南相馬市、真岡市)で組織された『NHK大河ドラマ化推進委員会』が誘致活動を行っている。今後も引き続き活動を進めていく。なお、尊徳翁を題材とした映画『地上の星 二宮金次郎伝』が制作予定で、真岡市としても撮影に全面的に協力していく。

質問 クラウドソーシングは、インターネットを活用して、文書作成やデザインなどの仕事が受発注できる仕組みで、新しい形の在宅ワークとして注目されている。足利市では、クラウドソーシングの普及・促進を図るため、市民を対象とした講習会や相談窓口の開設を行っている。真岡市も、待機児童が多いなどの課題がある中で、子育て中の主婦などが活躍できるよう、同様の取り組みを検討してはどうか。

答弁 平成27年度から足利市が『クラウドソーシング実証事業』を、NPO法人への委託により実施していることから、情報収集に努めていきたい。しかし、クラウドソーシングは、インターネットを活用した業務委託の携帯であり、民間事業者が自ら普及を図ることが適切である。そのため、現時点での取り組みは考えていない。

4. 教育関係の諸課題について



質問 さきの大戦から72年が経過し、日本人の8割が戦後生まれとなっている今日、戦争の悲惨さや平和の大切さを語り継ぐことが次第に難しくなっている。そうした中、8月6日に行われる**広島**の**平和記念式典**に中学生を派遣する自治体が**栃木県**内でも増えており、今年**11市町**で**184名**の生徒が派遣された。

残念ながら真岡市では行ってないが、今後の対応をどのように考えているのか。

答弁 広島・長崎の平和記念式典に児童・生徒が参加することは大変意義のあることだが、**全ての子ども達に同じ平和教育を浸透させることが大切**であると考えている。そのため、広島・長崎の平和記念式典への派遣については、現時点では考えていない。しかし、学校行事などの教育活動の中で、多くの児童・生徒が平和教育を**見聞できる機会について今後研究していく**。

(質問重複のため、七海朱美議員への答弁より引用)

質問 『**教員の多忙感**』が深刻化している中で、**校務支援システム**を導入し、問題解消を図る自治体が増えている。

このシステムは、児童・生徒の出席や成績の管理、授業計画や指導要録などの事務作業を効率化させるもので、**栃木県内でも14市中11市**が導入しているが、真岡市は本格導入に至っていない。

現在の計画では、平成30年度にモデル校を指定し、**31年度に本格導入**とのことだが、**もっと前倒し**をして進められないものか。

答弁 現在、**山前中学校**(平成23年度から)と**中村中学校**(平成29年度から)で、校務支援システムの**自主研究**を行っている。

両校で異なるソフトを使用し、使いやすさや安全性について検証しているところである。『**真岡市情報計画**』では、校務支援システムを**平成31年度に導入**することを目指している。すでに使用しているソフトとの整合性など、総合的に調査研究をしていきたい。

質問 栃木県内には『**栃木SC**』など、多くのプロスポーツチームがある。また、**真岡市内**を見ても『**ホンダ女子ソフトボール部**』や『**コットンウェイ硬式野球倶楽部**』などが**活動拠点**としている。こうしたチームや選手達が身近にいることは、地域にとって大きな財産である。

選手達に、**子ども達のスポーツ指導**を担ってもらえれば、子ども達に夢を与えられるのに加え、選手達の活動支援にもある。市長の選挙公約でもある**子ども達の体力アップ**から、**中学生の部活動の外部指導**まで、幅広く展開できると思うが。

答弁 日本女子ソフトボールリーグ1部で活躍する『**ホンダ女子ソフトボール部**』は、現在**年2回のソフトボールスクール**を開催している。ただし、大会や遠征、練習などにより**過密スケジュール**となっているため、**今以上の社会活動は難しい**とのことであった。

3年連続で都市対抗野球北関東大会に出場している『**コットンウェイ硬式野球倶楽部**』は、**子ども達への野球教室**などの事業を展開している。**さらなる連携**が図れるか**野球関係者などの意向を確認**していきたい。

再質問



弾道ミサイルに関する危機管理対策について

質問 現在、**放射性物質への対応**は『**国民保護計画**』ではなく『**地域防災計画**』に記載されている。今年6月に鳥取県が『**国民保護計画**』の改定を行った。**原子力関連施設が攻撃**された場合の放射性物質への対応について『**地域防災計画**』と**連動**させる必要性が生じたことが理由というが、真岡市ではそうした手続きは必要ないのか。

答弁 **ミサイル攻撃**により**放射能の危険**が起きた場合の対応について、『**国民保護計画**』の中に具体的な記載はないが、現在の『**防災計画**』で**十分対応し**得るものと考えている。

要望 市の**ホームページ**上にある『**Jアラート**』に関する情報は、何度もクリックしないと情報にたどり着かず**非常に分かりにくい**。トップページ上に掲載するとのことだったが、**見直しを早急**にしていいただきたい。また、弾道ミサイルを想定した**避難訓練**の実施についても前向きな答弁であった。ちなみに、今年3月に**秋田県男鹿市**で実施された訓練では、**参加した住民が概ね6分半から7分強で避難を終了**したという。こういう事を1度経験しておくだけでも、いざという時の市民の対応は違うと思う。こちらについても、しっかりとした対応をお願いしたい。

待機児童問題の解消について

質問 平成28年度の状況を見ると、**真岡保育所**の入所児童が**定員より26名少ない**ことが分かる。つまり、真岡市の待機児童問題は、1ヶ所の市立保育所が定員通り受け入れれば解消できるものということもできる。こうした問題は、**保育士が確保できていない**ことが原因である。来年度から**保育士確保に向けた取り組み**を行うとのことだが、**どういった施策を検討しているのか**。

答弁 市長の指示を受け、**国・県などの支援策**、あるいは**小山市を含め他市の事例を調査**しているところである。

具体的な内容については、まだ申し上げられる段階ではない。

国際交流事業について

質問 10年前、20年前は相互に行き来して式典を行ったとの答弁であった。しかし、**グレンドーラ市**や**斗六市**と交流していること自体**知らない市民も**少なくない。姉妹都市などの状況を、一般市民に**広く知らしめる取り組み**は何か考えているのか。

答弁 現在のところ、具体的な記念事業については計画が煮詰まっていないが、**グレンドーラ市**との**記念式典**については、その内容などについて**広く市民に啓発**していきたい。

質問 『**ご当地グルメ**』の開発のために、飲食店の関係者を派遣するのは難しいとのことだが、すでに派遣が決まっている方々に調査をお願いする方法もある。例えば、姉妹校を訪問する**PTAの役員**に『**姉妹都市レポーター**』のような形でお願いをしたらどうだろうか。『**ご当地グルメ**』の**調査も**さることながら、姉妹都市の様子も動画や画像で撮影していただければ、**市民に知らしめることも**できるのではないのか。

答弁 『**ご当地グルメ**』の関係で言えば、やはり**行政からよりも、地元からの盛り上がり**がないと、取り組みが継続していかない。

飲食業者などから自発的な提案があれば、市としても積極的な対応・相談には応じていきたいと思う。

要望 現在『**ご当地グルメ**』で全国的にも有名になっている、**宇都宮市の餃子**、あるいは**甲府市の鳥もつ煮**などは、共通して**行政が仕掛けた**ものである。市民からの申し出を待つだけでなく、行政からアクションを起こすことも可能だということは、ぜひお考えいただきたい。

大学生などの合宿誘致について

質問 今回の答弁を聞いてみると、市民からの動きがあるまで動かないという『**待ちの姿勢**』に終始した内容が目立ったように思う。合宿の誘致について考えてみても、行政がやることは『**誘致している事実を広報**すること』と、『**相談窓口**を設けて各機関との**連絡調整**をすること』だけである。これらは、今行われている**フィルムコミッションと変わらない**。なぜできないのか。

答弁 例えば、**宿泊施設**や**公共施設**の情報を**リアルタイムでチェック**できないと、そこに観光業者なども介在した場合、関係者の間で瞬時に情報共有することが難しく、かえって**お客様にも迷惑**をかけるのではないかと考えている。

要望 かつて『**合宿のまち**』として実績を上げていたのが**福島県富岡町**である。先日、富岡町役場に確認をしたところ、**震災前の時期**で体育会のような本格的な団体だけでも**約6,000名**ほど集まっていたようだ。それだけ経済効果があり、真岡市にとっては地域の特性を活かせる分野だと思う。その辺りのことについては、もっと検討してほしい。

校務支援システムの導入について

質問 **平成30年度にモデル校を指定**して調査を行うことについて、**有効なのか疑問**に感じる。すでに栃木県内の**14市中11市**が**本格導入**しており、市内でも**山前中学校**と**中村中学校**が**自主研究**に取り組んでいる。**調査結果の蓄積はそろっている**ように思える。今後、教育現場で様々な新規事業がスタートする中において、**スピード感**をもって取り組むことの方が重要ではないか。

答弁 **中村中学校**での研究は、当初の**計画よりも前倒し**をして行っている。時間をかけて、使いやすさなどについて現場の声も十分に踏まえて対応したい。**早まった導入は避けなければならない**と思っており、諸々の調査研究を総合的に勘案して31年度から実施したいと考えている。

要望 前回質問をした際にも申し上げたが、**山前中学校**の先生方は異動前にいた学校の時と比べて、**同じ業務が1時間半も短縮**してできているとのことである。新規の教育事業が増えている中で、**業務の効率化**を同時に**進めていかないと**、現場の**先生方が混乱**するだけである。そうした点は、もう少しキチンとリーダーシップをとってやっていただきたい。

各種スポーツチームとの連携について

質問 こうした取り組みを各チームが個別に行っているため、市民には伝わりにくいという側面がある。例えば、**北海道札幌市**の場合『**アスリート派遣事業**』と銘打って、北海道日本ハムファイターズやコンサドーレ札幌の関係者が派遣されている。**事業が1つのパッケージ化**されてまとまっているから、**市民にも分かりやすい**し、活用しやすい。そうした点は、真岡市も改善すべきではないか。

答弁 **子ども達の体力発展**のために、**地域の人材を活用**していきたいという考えは、教育委員会としても持っている。市民への分かりやすさ・パッケージ化という課題を含めて**検討**していきたい。



視察研修 産業建設常任委員会 & 議会活性化等検討委員会

7月から8月にかけて、産業建設常任委員会と議会活性化等検討委員会で視察研修を実施しました。

1 産業建設常任委員会視察 [7月3日～5日]

視察地：静岡県富士市
愛知県犬山市



富士市

富士市では産業支援センター「f-Biz」を視察。同センターは、創業・産業支援を目的に平成20年にオープンした。我々に説明した小出宗昭センター長(写真左端)は、「創業・事業・産業支援のカリスマ」と呼ばれ、全国でもその名が知られている。

小出氏は、公的機関による創業・産業支援について「目標設定がない」、「責任の所在が不明確」などの課題を指摘し、産業支援するためには適任者の確保が何よりも重要と語った。

「f-Biz」の年間相談件数は4,000件以上に及び、そのうち7割の売り上げを向上させている。中には、廃業の相談に来た事業所を再生させたこともあるという。



犬山市

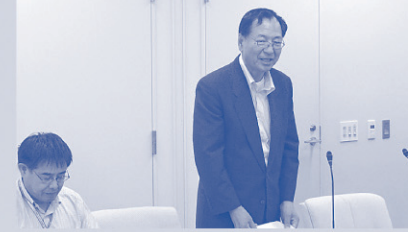
犬山市は、国宝犬山城など観光資源に恵まれた地域である。しかし、犬山城の入場者は、平成15年にピーク時の約4割まで落ち込んだ。

そうした中、名古屋鉄道とのタイアップ事業を平成19年度から実施。積極的なPR活動の効果もあり、同市への観光客数は「V字回復」を遂げた。

他の自治体も同様の取り組みをした中で、同市が最も大きな効果を得られたのは、鉄道会社に頼り切るのではなく、地元の観光協会も様々なイベントを企画するなど「提案力」を発揮したことが大きいように思えた。

2 議会活性化等検討委員会視察 [8月22日～23日]

視察地：東京都町田市
埼玉県所沢市



町田市

町田市の議会改革は「市民の議会への関心度を高める」ことを第一義としている。議会のインターネット中継も、全国の地方議会でいち早く平成15年から実施している(写真は、町田市の吉田勉議長)。

また、1つ1つの議案に対してどのような話し合いが行われたのか、「議案のカルテ」をHP上に公表して市民にも分かりやすく説明するよう心を砕いているほか、議会開会時に市内にポスターを掲示するなどの努力を続けている。

個人的に興味を抱いたのは、市民との意見交換の方法。議会全体としての「議会報告会」ではなく、常任委員会ごとに各種団体との懇談会を開き、政策提言に活かしている。



所沢市

所沢市議会における議会改革の特徴は、①『議会報告会』をはじめ様々な方法で市民との意見交換の場を設けている

②議会内に『政策研究審議会』を設け、大学教授などの知識を積極的に活用している

などが挙げられる。

また、議会改革の事業評価を行っていることも特筆すべき点である。議会改革を進める際、制度の立ち上げに重きが置かれがちである。しかし、それらの制度が機能しているのかチェックすることこそ重要という意識は、今後我々も見習っていかねばならないと思う。

今回の視察では、右記の金額が公費でまかなわれました。
※当然のことですが、視察中の飲食代は全て議員の個人負担です。
※議員日当(3,300円×3日)の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。

総額 **74,290円** 出所 議会費のうち旅費
内訳 交通費、宿泊費、議員日当

今回の視察では、右記の金額が公費でまかなわれました。
※当然のことですが、視察中の飲食代は全て議員の個人負担です。
※議員日当(3,300円×2日)の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。

総額 **35,934円** 出所 議会費のうち旅費など
内訳 交通費、宿泊費、議員日当

コラム むあっが

ご存じの方も多いかも知れないが、山梨県甲府市のご当地グルメに『甲府鳥もつ煮』というものがある。そもそものルーツは、昭和20年代に同市内の蕎麦屋が考案したものだとされ、その後ほかの飲食店に徐々に広まっていったようである。

この『甲府鳥もつ煮』は、平成22年に行われた『第5回 B-1グランプリ』で、初出場ながら見事にゴールドグランプリ(優勝)を獲得し、一躍脚光を浴びることとなった。独自の食文化を発掘・再評価し、地域の活性化につなげていこうという気運が高まったのは、平成20年に『みなさまの縁をとりもつ隊』というグループが、市内に組織されたからのことだという。

昨年の秋、山梨県甲府市で『地域資源を活かしたまちづくり』をテーマに、そのグループの取り組みについて研修を受ける機会があった。説明を聞きながら、『おや?』と不思議な感覚に捉われたのは、私達参加者に熱っぽく話をしていたのが甲府市役所の職員だったということだ。前述の『みなさまの縁をとりもつ隊』は、甲府市役所の若手職員有志によって結成された。地域の活性化策について行政関係者が発案し、リードをしてきたことは、甲府市の取り組みの大きな特徴のようにも映る。

ただし、青森県八戸市の『せんべい汁』、秋田県横手市の『焼きそば』、そして何より宇都宮市の『餃子』など、行政が主導して世間に広まった『ご当地グルメ』というのは、実を言うと私達が考えている以上に多い。

甲府市 『みなさまの縁をとりもつ隊』に見る “行政の立ち位置”

『市民と行政の協働によるまちづくり』ということが叫ばれて随分久しくなった。公共サービスに対するニーズの多様化や厳しさを増す財政状況の中にあっては、市民が『主体者』として、積極的にまちづくりに関わることが一層求められる。

その一方で、最近見えにくくなっているのは「行政の立ち位置」であると感じることがある。これは真岡市に限ったことではないが、行政関係者が自らをまちづくりの『行司役』、『後方支援担当』と決め込み、ともしれば高みの見物をしてしまうケースが少なくない。忘れるべきでないのは、市民も行政も、喜びや危機感を共有し合いながら、タグを組んで活動する『まちづくりのプレーヤー』であるということだ。

9月定例議会で、私を含め一般質問に立った議員から、地域の活性化に関する様々な提案があった。執行部は、それらが活性化に有効と認めつつも『市民から提案があれば、行政としても支援を考える』という内容の答弁を繰り返していたことが、聞いていて大変気になった。

無論、行政とすれば『市民からの盛り上がりがないければ長続きしない』という思いがあるのだろう。しかし、甲府市の『みなさまの縁をとりもつ隊』の取り組みを見ても分かるように、地域の活性化策を『誰が提案したのか?』ということは、実はあまり大きな問題ではない。

以前にも述べたことだが、平成27年秋に行われた国勢調査によると、真岡市の人口は当初の予測よりも5年早いスピードで減少している。この状況を、まちづくりのパートナーである市民と行政が、危機感として共有できているのか今問われている。

どちらか一方が『待ちの姿勢』では、そこから何も生まれない。

中村かずひの活動日誌

| 7月 | |
|--------|----------------------------------|
| 1日 | 真岡自然観察会総会・バス研修 (於:長野県軽井沢町ほか) |
| 3~4日 | 産業建設常任委員会行政視察 (静岡県富士市、愛知県犬山市) |
| 7日 | 議会活性化等検討委員会 真岡青年会議所例会 |
| 10日 | あいさつボランティア |
| 12~13日 | 関東若手市議会議員の会総会・研修会 (於:埼玉県吉川市、八潮市) |
| 14日 | 栃木県市議会議長会議員研修(於:那須烏山市) |
| 15日 | 熊倉4区ごみ減量化・消費生活座談会 |
| 16日 | 地域共助活動ふれあいサポーター会議 |
| 18~19日 | 全国若手市議会議員の会役員会・研修会 (於:福島県いわき市ほか) |
| 21~23日 | 真岡の夏祭り |
| 26日 | 真岡新聞音訳作業(「ひばりの会」の活動として) |
| 27日 | 日光市役所を個人視察 |
| 29日 | 八月の会「今、次世代に伝えたいこと」 |

| 8月 | |
|--------|---------------------------------|
| 2日 | 県南6市議会議長会議員研修(於:足利市) |
| 5日 | 真岡地子連球技大会 東郷団地夏祭り |
| 6日 | 「わかば会」奉仕作業 |
| 8日 | 明治大学校友会栃木県支部役員会(於:宇都宮市) |
| 15日 | 栃木県戦没者追悼式(於:宇都宮市) |
| 16~17日 | 関東若手市議会議員の会総会・研修会 (於:東京都千代田区) |
| 17~18日 | 全国若手市議会議員の会総会・研修会 (於:東京都千代田区ほか) |
| 19日 | 大谷の夏祭り もおか木綿踊り |
| 22~23日 | 議会活性化等検討委員会視察 (東京都町田市、埼玉県所沢市) |
| 26日 | やまさわの里納涼祭 |
| 28日 | 議員協議会 |
| 30日 | 議会活性化等検討委員会 一般質問の通告書を提出 |
| 31日 | 質疑一般質問調整会議 ※その後、市の担当課と接見 |

| 9月 | |
|-----|---|
| 3日 | 桐生麻耶後援会バスツアー (東京 新橋演舞場) |
| 4日 | あいさつボランティア 9月定例議会開会 |
| 8日 | 青色回転灯登載車による防犯パトロール |
| 9日 | 真岡中学校、真岡東中学校運動会 |
| 11日 | 質疑一般質問1日目 ※この日、3人目として登壇 |
| 12日 | 質疑一般質問2日目 真岡地区区長会との意見交換会 |
| 14日 | 産業建設常任委員会1日目 |
| 15日 | 産業建設常任委員会2日目 |
| 16日 | 真岡小学校、真岡東小学校、真岡西小学校、亀山小学校運動会 |
| 20日 | 決算審査特別委員会の通告書を提出 ※その後、市の担当課と接見 真岡青年会議所総会 |
| 21日 | 交通安全指導(高間木の交差点にて) |
| 22日 | 決算審査特別委員会にて質疑 議会活性化等検討委員会 BCP講演会 |
| 24日 | 熊倉4区敬老会 明治大学校友会栃木県支部 「マンドリン倶楽部コンサート」 ※スタッフとしてお手伝い |
| 25日 | あいさつボランティア 地域生活支援拠点に関する勉強会 |
| 26日 | 議員協議会 9月定例議会閉会 |

